

NO. 47 (通算47)

絵・文・題字 渋谷 一夫

我が家の天然記念木①

昔の柿「禅寺丸」

昔の農家は家屋が屋敷林で囲まれていた。防風や日除けの意味もあったのだろう。だが今はそのほとんどが切り倒され、残っているのはほんの僅かだ。我が家も然りだ。そこで私は、今も残る我が家の老木3本を「天然記念木」と自称し保存している。今月から、その3本を紹介したい。

糖代わりの、甘い貴重な果実だったのだ。

我が屋敷の一角に、樹

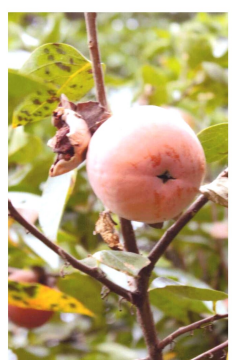
齢200年近い柿の古木がある。「禅寺丸」という種類の甘柿だ。昔の南畑の民家には、大抵数本の柿の木があった。それもすべて自家用だ。熟すればすぐ食べられる。自給自足時代の砂

貴重な財産「老柿」

このように非常に重宝

がられた柿も時代の変化で次第に切り倒され、今ではほんの僅かになってしまった。我が家にも太い柿が10本くらいあったが、今残っている昔の柿は、この「禅寺丸」1本だけだ。元々7、8mもある木だったので、上方に或る柿は、長い「つつばさみ」でも届かず野鳥の餌だった。

そこで、高枝を切り詰めて4、5mに低くし、枝を横に伸ばした。写真がその現在の姿だ。



でも、相変わらず元気だ。地上50cmの位置で、直径40、50cm、胴回りは160cm位ある。根元はもつと太い。ゴツゴツと節くれ立ち測定不可能な状態だ。樹齢は分からないが、恐らく200年近いと思われる。



果肉は黒っぽく甘い

甘柿だが、今頃はまだまだ濃い。これから果皮が濃い橙赤色になり、果肉がゴマ粒様の黒褐色になってくると甘くなる。最初は何故渋いのだろう。

渋味の犯人はタンニンという物質だ。

これが果肉の中に溶けていると渋いのだ。そのタンニンは熟してくると、酸化酵素の働きで酸化タンニンに変わり、水に溶けない塊になる。ゴマ粒のような黒っぽい粒つぶが、それだ。これは不溶性なので渋味を感じない。甘味だけが感じられるというわけだ。

我が家の天然記念木

この「禅寺丸」という老木は、樹高を低くしたので見栄えはしない。だが、今も元気だ。甘い果実を、毎年提供してくれている。だから私は、「我が家の天然記念木」として大事にしていこう

と思っている。